

Oracle® ILOM 機能更新およびリリースノート
ファームウェア Release 3.2.x

ORACLE®

Part No: E40354-03
2015 年 10 月

Part No: E40354-03

Copyright © 2013, 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

| | |
|--|----|
| このドキュメントの使用方法 | 7 |
| Oracle ILOM ファームウェアのバージョンとダウンロード方法 | 9 |
| Oracle ILOM 3.2.1 ファームウェアに対する更新 | 13 |
| サーバーおよび Sun Blade 6000 シャーシに対する最初の 3.2.1 ポイントリリース | 13 |
| 3.2.1 の新機能および拡張機能のサマリー | 13 |
| Oracle ILOM 3.2.1 の既知の問題 | 14 |
| Oracle ILOM リモートコンソールプラスの起動時に作成されるディレクトリ | 15 |
| Internet Explorer (IE) 9 - 応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる | 15 |
| Firefox バージョン 13 以降: HTTPS 接続で応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる | 16 |
| Oracle ILOM 3.2.x での WS-MAN プロパティのバックアップ時の誤解を招くエラーメッセージ | 16 |
| イスラエルのタイムゾーン用に構成されたシステム: ヨーロッパ/アテネのタイムゾーンを使用した、SP または CMM クロックの新しい DST の終了日への切り替えの修正 | 17 |
| ドキュメントの更新と既知の問題 | 17 |
| Oracle ILOM ドキュメントライブラリガイド名の変更 | 18 |
| 相互参照で使用するタイトルの簡略化 | 18 |
| Web インタフェースの命名法を反映するためのリモートコンソールの参照の変更 | 19 |
| ドキュメントからの Windows Vista のサポートの削除 | 19 |
| Oracle ILOM 3.2.2 ファームウェアに対する更新 | 21 |
| Oracle ILOM 3.2.2 の新機能および拡張機能 | 21 |
| Oracle ILOM 3.2.2 の時点で既知の問題 | 22 |
| オンボード I/O デバイスに関する詳細の表示の制限 | 22 |

| | |
|---|-----------|
| Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスで特殊キーがロックされる | 23 |
| Oracle ILOM 3.2.2 の時点で解決済みの問題 | 23 |
| 監査ログオブジェクト参照へのセッション番号の追加 | 23 |
| Oracle ILOM 3.2.4 ファームウェアへの更新 | 25 |
| Oracle ILOM 3.2.4 の新機能および拡張機能 | 25 |
| Oracle ILOM 3.2.4 時点の既知の問題 | 26 |
| サーバーを 3.2.4 ファームウェアリリースに更新したあと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動できない | 27 |
| ユーザーパスワードに特殊文字を使用すると、スナップショットのダウンロードがハングアップする | 27 |
| Oracle ILOM 3.2.5 ファームウェアへの更新 | 29 |
| Oracle ILOM 3.2.5 の新機能および拡張機能 | 29 |
| Oracle ILOM 3.2.5 時点の既知の問題 | 30 |
| 検証済みブートポリシーおよび非揮発性 RAM 構成によって SPARC サーバー上のブートが失敗することがある | 30 |
| Web インタフェースからホストの電源を投入できないというエラーメッセージ | 31 |
| x86 の遅延 BIOS ファームウェアオプションによってリセット時間が長くなったり、複数回リブートしたりする場合がある | 31 |
| Oracle Netra モジュールシステムでの警告管理規則の制限された使用 | 32 |
| Solaris OBP ストレージデバイスがリモートシステムコンソールプラスに表示されない | 32 |
| Java 7 以前を実行している場合のリモートシステムコンソールに関する TLS の制限 | 32 |
| M シリーズサーバーが SP 上の DHCP 接続をサポートしていない | 33 |

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2.x ファームウェアに関するファームウェア機能拡張、既知の問題、および回避方法について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、および Oracle 認定サービスプロバイダ。
- **必要な知識** – ユーザーにはシステムハードウェアの管理経験があるべきです。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html で入手できます。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せ下さい。

Oracle ILOM ファームウェアのバージョンとダウンロード方法

Oracle ILOM ファームウェアをダウンロードするには、次のセクションを参照してください。

- [9 ページの「Oracle ILOM ファームウェアのバージョン番号スキーム」](#)
- [10 ページの「MOS を使用したシステムファームウェアのダウンロード」](#)
- [11 ページの「Solaris IPS を使用した SPARC システムファームウェアのダウンロード」](#)

注記 - ファームウェアの更新を実行する方法

Oracle ILOM ファームウェアのバージョン番号スキーム

Oracle ILOM は、サーバーまたはシャreshモニタリングモジュール (CMM) 上で実行しているファームウェアバージョンを識別するのに役立つファームウェアのバージョン番号スキームを使用します。この番号スキームには、5 つのフィールドから成る文字列が含まれています。たとえば、a.b.c.d.e。ここでは：

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを表します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを表します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを表します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを表します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームのプロダクトノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを表します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.2.1.1.a は次を指定します。

- メジャーバージョンとしての Oracle ILOM 3
- マイナーバージョンとしての Oracle ILOM 3.2
- 最初の更新バージョンとしての Oracle ILOM 3.2.1
- 3.2.1 のマイクロバージョンとしての Oracle ILOM 3.2.1.1
- 3.2.1.1 のナノバージョンとしての Oracle ILOM 3.2.1.1.a

ヒント - Oracle サーバーまたはブレードシャーシにインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを識別するには、Web インタフェースで「System Information」> 「Firmware」をクリックするか、またはコマンド行インタフェースで「version」と入力します。

MOS を使用したシステムファームウェアのダウンロード

Oracle ILOM ファームウェアへの更新は、Oracle サーバーまたはブレードシャーシシステムごとに My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンのソフトウェア更新を通して使用できます。これらのソフトウェア更新を MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

注記 - ファームウェアの更新を実行する方法については、「[Performing Firmware Updates in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』](#)」を参照してください。

▼ 製品ソフトウェアおよびファームウェアをダウンロードする

1. <http://support.oracle.com> にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
4. 「パッチ検索」パネルで、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。
5. 「対象製品」リストボックスで、製品名の全体または一部を一致する製品のリストがリストボックスに表示されるまで入力したあと、目的の製品名を選択します。
製品名の例: 「Oracle Server X5-2」または「SPARC M6-32」。
6. 「リリース」リストボックスで次のようにします。
 - a. 「リリース」リストボックスで下矢印をクリックして、一致する製品フォルダのリストを表示します。
1 つ以上の製品ソフトウェアリリースのリストが表示されます。
 - b. 目的のソフトウェアリリースの横にあるチェックボックスを選択します。
例: 「X4-2 SW 1.0.1」または「SPARC M6-32 Sun システムファームウェア 9.2」
7. 「検索」をクリックします。

「パッチ検索結果」画面が表示され、パッチ名と説明のリストが示されます。

8. 「パッチ検索結果」画面で、目的の「パッチ名」を選択します。
9. 「パッチ名」の選択で、次のいずれかのアクションをクリックします。
 - 「Readme」 – 選択したパッチの Readme ファイルを開きます。
 - 「計画に追加」 – 選択したパッチを新しい計画または既存の計画に追加します。
 - 「ダウンロード」 – 選択したパッチをダウンロードします。

Solaris IPS を使用した SPARC システムファームウェアのダウンロード

選択された SPARC サーバーの最新バージョンのプラットフォームファームウェアは、Solaris 11.3 Image Packaging System (IPS) サポートリポジトリで入手可能になりました。システム管理者は、`pkg install` コマンドを使用して、最新のサーバープラットフォームファームウェアバージョンにアクセスできます。IPS ファームウェアサーバーパッケージは、My Oracle Support (<http://support.oracle.com>) から現在ダウンロードできるものとまったく同じファイルを提供します。ファームウェアパッケージのインストールでは、ファームウェアファイルが Solaris ファイルシステム階層内に配置されるだけです。システムの管理者は、ファームウェア更新プロセスを手動で実行したあと、そのファームウェア更新プロセスを完了するためにサーバーの電源を再投入する必要があります。

Oracle Solaris IPS の方法を使用して SPARC プラットフォームファームウェアをダウンロードする方法の詳細は、次のセクションを参照してください。

- [11 ページの「作業を開始する前に」](#)
- [12 ページの「Solaris IPS サポートリポジトリから SPARC ファームウェアをダウンロードする」](#)

作業を開始する前に

- SPARC サーバーに Oracle Solaris 11.3 以降がインストールされている必要があります。
- ユーザーは、サポートパッケージリポジトリにアクセスするための Oracle Solaris サポート契約を保持している必要があります。
- Solaris IPS の詳細は、Solaris 11.3 の IPS ドキュメント (<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/technologies/lifecycle-management-2237945.html>) を参照してください。

▼ Solaris IPS サポートリポジトリから SPARC ファームウェアをダウンロードする

1. Oracle Solaris サポートパッケージリポジトリにアクセスします。
2. `pkg list` コマンドを使用して、サーバーのファームウェア更新パッケージを識別します。
コマンドの例: `pkg list -af firmware/system/ServerType`
パッケージ名には、サーバーの名前が含まれています。
3. `pkg install` コマンドを使用して、ファームウェアパッケージファイルをダウンロードします。
コマンドの例: `pkg install firmware/system/T5-4`
`pkg install` コマンドは、Solaris ファイルシステム内のファイルを `/var/firmware/ServerType` の下に配置します。
ヒント:
 - 同じパッケージ名への以降のダウンロードには、`pkg update` コマンドを使用します。
 - パッケージマニフェストを照会するには、`pkg contents` コマンドを使用します。
4. ファームウェアの更新を適用する方法については、README ファイルを参照してください。
パスの例:
`/var/firmware/system/T5-4/sysfw9-0/p21342653_942e/README.html`

注記 - ファームウェアの更新のさらに詳細な手順については、「[Performing Firmware Updates](#)」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』を参照してください。

Oracle ILOM 3.2.1 ファームウェアに対する更新

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.1 ファームウェアの最初のポイントリリース、および既知の問題とその回避方法の一覧を示します。

- [13 ページの「サーバーおよび Sun Blade 6000 シャーシに対する最初の 3.2.1 ポイントリリース」](#)
- [13 ページの「3.2.1 の新機能および拡張機能のサマリー」](#)
- [14 ページの「Oracle ILOM 3.2.1 の既知の問題」](#)
- [17 ページの「ドキュメントの更新と既知の問題」](#)

サーバーおよび Sun Blade 6000 シャーシに対する最初の 3.2.1 ポイントリリース

次の表は、Oracle サーバーサービスプロセッサ (SP) とシャーシモニタリングモジュール (CMM) に使用できる最初の Oracle ILOM 3.2.1 ファームウェアポイントリリースを示しています。

| サーバー SP または CMM | 最初の Oracle ILOM 3.2.1 ファームウェアポイントリリース |
|------------------------|---------------------------------------|
| x86 サーバーサービスプロセッサ (SP) | 3.2.1.x ファームウェアリリース |
| Sun Blade 6000 CMM | 3.2.1.x ファームウェアリリース |
| SPARC SP | 3.2.1.x ファームウェアリリース |

サーバー固有の Oracle ILOM 機能の詳細については、使用しているサーバーの管理ガイドを参照してください。

3.2.1 の新機能および拡張機能のサマリー

次の表に、Oracle ILOM 3.2.1 のファームウェア機能拡張の一部を示します。

表 1 Oracle ILOM 3.2.1 の時点の新機能および拡張機能のサマリー

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|---|---|---|
| Oracle ILOM Web ブラウザインタフェース用の新しい組み込みミニヘルプシステム | Oracle ILOM 3.2.1 から、Oracle ILOM Web インタフェースでページレベルのヘルプコンテンツが使用できるようになりました。ヘルプコンテンツにアクセスするには、Web ページで「詳細...」リンクをクリックします。 | |
| 新しくリリースされた Oracle サーバー用の新規リモート KVMS インタフェース | Oracle ILOM リモートコンソールプラスでは、ホストサーバーの KVMS デバイスをグラフィカルにリダイレクトするためのプロパティがサポートされています。 | 「Using the Oracle ILOM Remote System Console Plus」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| サーバーコンポーネントを有効および無効にするための新規プロパティ | この機能をサポートするシステムでは、要求されたコンポーネント状態 (<code>requested_state</code>) プロパティによって、システム管理者が Oracle ILOM インタフェースからコンポーネントを有効および無効にできます。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Manually Enable or Disable an ASR Component」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 ■ 「Health State: Definitions」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |
| 新しいシステムログ | システムログでは、システムインベントリアクションおよびコンポーネント健全性のステータスに関するシステムレベルおよびサブシステムレベルのイベントが報告されます。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Log Properties」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 ■ 「Log Properties」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |
| CLI での新しいシリアルコンソールログインモードプロパティ | <code>logging</code> プロパティによって、システム管理者がホストコンソールログインを有効または無効にできるようになりました。 | 「Establishing a Host Serial Console Session to the Server」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| SPARC の電力ポリシーを設定するためのプロパティの更新 | Oracle ILOM 3.2.1 時点で含まれるプロパティ: Disabled, Elastic, Performance。 | 「Setting SP Power Management Settings for Power Policy (SPARC)」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| アクティブなユーザーセッションを削除する機能 | ユーザーが休暇中などの必要に応じて、システム管理者がアクティブなユーザーセッションを削除できます | 「Manage User Authenticated Sessions per Managed Device」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| SPARC の新しい検証ブート機能 | 検証ブートを使用して、システムのブートブロックと Oracle Solaris カーネルモジュールをシステムにロードする前に検証できます。 | 「Configuring SPARC Verified Boot Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |

Oracle ILOM 3.2.1 の既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.1 の時点で既知の問題と回避方法について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト (ER) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 問題の記述 | リンク |
|--|---|
| リモートコンソールプラスを起動すると Oracle ILOM によってホームディレクトリ内にディレクトリが作成される | 15 ページの「Oracle ILOM リモートコンソールプラスの起動時に作成されるディレクトリ」 |
| IE 9 の使用時に Oracle ILOM への Web ブラウザ接続がハングする | 15 ページの「Internet Explorer (IE) 9 - 応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる」 |
| Firefox と HTTPS 接続の使用時に Oracle ILOM への Web ブラウザ接続がハングする | 16 ページの「Firefox バージョン 13 以降: HTTPS 接続で応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる」 |
| Oracle ILOM 3.2.1 以降で WS-MAN 構成プロパティがバックアップに失敗する | 16 ページの「Oracle ILOM 3.2.x での WS-MAN プロパティのバックアップ時の誤解を招くエラーメッセージ」 |
| イスラエルのタイムゾーン用に構成されたシステムで Oracle ILOM クロックが早期に標準時間に切り替わる | 17 ページの「イスラエルのタイムゾーン用に構成されたシステム: ヨーロッパ/アテネのタイムゾーンを使用した、SP または CMM クロックの新しい DST の終了日への切り替えの修正」 |

Oracle ILOM リモートコンソールプラスの起動時に作成されるディレクトリ

バグ 15820344

問題: Oracle ILOM リモートコンソールプラスを起動すると、ホームディレクトリ内に次のディレクトリが作成されます。

V3.00E10P2 Build Number_ Testing

更新: これは予想される動作です。ディレクトリを無視してください。

Internet Explorer (IE) 9 - 応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる

問題: IE 9 ブラウザで 1 つ以上の次の動作が発生しました。1) ログインしてパスワードを指定したあとで、Oracle ILOM への Web 接続を確立できない。2) Oracle ILOM でタブをクリックしたあとで長い遅延が発生した。3) ブラウザのタイムアウトエラーメッセージが表示された。

回避方法: 次の手順に従って、バックグラウンド接続のインターネット設定を追加することでシステムレジストリを編集します。

- レジストリエディタ (regedit.exe) を開きます。
たとえば、「スタート」、「ファイル名を指定して実行」とクリックし、「regedit」と入力して「OK」をクリックします。
- 次のレジストリキーにナビゲートします。

「HKEY_CURRENT_CONFIG」>「Software」>「Microsoft」>「Windows」>
「Current Version」>「Internet Settings」

3. 「編集」メニューで、「新規」を指して「DWORD 値」をクリックします。
4. 「BackgroundConnections」と入力して、Enter を押します。
5. 次の手順を実行して、新しい BackgroundConnection エントリの値を設定します。
 - a. BackgroundConnections エントリを選択します。
 - b. 「編集」>「修正」をクリックします。
 - c. 値を 0 に設定します
 - d. 「OK」をクリックします。
6. DWORD の新しいレジストリエントリが値 0 で作成されたことを確認します。
7. Internet Explorer を再起動します。

Firefox バージョン 13 以降: HTTPS 接続で応答時間が遅くなるか動作がタイムアウトになる

問題: Firefox ブラウザと HTTPS 接続の使用時に 1 つ以上の次の動作が発生しました。1) ログインしてパスワードを指定したあとで Oracle ILOM への Web 接続を確立できない。2) Oracle ILOM でタブをクリックしたあとで長い遅延が発生した。3) ブラウザのタイムアウトエラーメッセージが表示された。

回避方法: 次の手順に従って、Oracle ILOM との Firefox HTTPS 接続を解決します。

1. Firefox の URL テキストボックスに about:config と入力します
2. 「細心の注意を払って使用する」をクリックして、次のメッセージを受け入れます。
「動作保証対象外になります！」
3. network.http.spdy.enabled を検索します
4. network.http.spdy.enabled が見つかった場合、次の操作を行います。
 - a. network.http.spdy.enabled をダブルクリックして、値を false に設定します。
 - b. Firefox を閉じて再起動します。

Oracle ILOM 3.2.x での WS-MAN プロパティのバックアップ時の誤解を招くエラーメッセージ

問題: ファームウェアリリース 3.1.2 の時点で、WS-MAN API は Oracle ILOM では非推奨であり、将来の Oracle ILOM ファームウェアリリースではサポートされなくなります。そのため、Oracle ILOM ファームウェアを 3.2.1 以降にアップグレードして、WS-MAN プロパティが含まれている SP 構成のバックアップを試行する場合、Oracle ILOM に次のエラーメッセージが表示されます。

```
Config restore: Unable to restore property                               '/SP/
services/wsman/https_port', permission denied.
```

更新: 上の復元エラーメッセージは、ユーザーのアクセス権が原因で WS-MAN プロパティのバックアップ操作が失敗したと示しているため、誤解を招く恐れがあります。この場合、ファームウェアリリース 3.2.1 以降の時点で WS-MAN プロパティは Oracle ILOM によってサポートされなくなったために、Oracle ILOM は WS-MAN プロパティのバックアップに失敗しました。

イスラエルのタイムゾーン用に構成されたシステム: ヨーロッパ/アテネのタイムゾーンを使用した、SP または CMM クロックの新しい DST の終了日への切り替えの修正

問題: Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) またはシャーシモニタリングモジュール (CMM) クロックがイスラエルのタイムゾーンを使用するよう構成されている場合、クロックが、2013 年 9 月 8 日にサマータイム (DST) から標準時間に誤って切り替わります。2013 年の時点で、イスラエルでの DST の終了日は 10 月の最終日曜日です。

回避方法: イスラエルのタイムゾーンを使用するよう構成されたシステムでは、SP または CMM クロックの Oracle ILOM の「Timezone」プロパティの値を「Europe/Athens」に変更します。ヨーロッパ/アテネのタイムゾーンは、イスラエルのタイムゾーンと同じ調整標準時からの偏差を共有し、10 月の最終日曜日に DST から標準時間に切り替わります。

Web インタフェースまたはコマンド行インタフェース (CLI) で、SP または CMM クロックの Oracle ILOM の「Timezone」プロパティを変更できます。

- Web インタフェースでは、「ILOM Administration」->「Date and Time」->「Timezone」->「Europe/Athens」をクリックします。
- CLI では、`set /SP|CMM/clock timezone=Europe/Athens` と入力します。

ドキュメントの更新と既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.1 時点での Oracle ILOM ドキュメントライブラリの更新または既知の問題について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト番号と更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 問題の記述 | リンク |
|--|---|
| Oracle ILOM 3.2.1 時点での Oracle ILOM ガイド名の変更 | 18 ページの「Oracle ILOM ドキュメントライブラリガイド名の変更」 |
| 「関連情報」セクションで使用する ILOM タイトルの簡略化 | 18 ページの「相互参照で使用するタイトルの簡略化」 |

| 問題の記述 | リンク |
|-------------------------|---|
| リモートコンソールアプリケーションの参照の変更 | 19 ページの「Web インタフェースの命名法を反映するためのリモートコンソールの参照の変更」 |
| Windows Vista のサポートの削除 | 19 ページの「ドキュメントからの Windows Vista のサポートの削除」 |

Oracle ILOM ドキュメントライブラリガイド名の変更

Oracle ILOM ドキュメントライブラリのガイド名が、ILOM 3.2.1 時点で変更されました。以前のタイトルと現在のタイトルを次に示します。

| 以前のタイトル | 現在のタイトル |
|--|---|
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) クイックスタートガイド』 | 『Oracle ILOM スタートガイド』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ユーザーズガイド』 | 『Oracle ILOM システムモニタリングおよび診断用ユーザーズガイド』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 構成および保守ガイド』 | 『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 基本 CLI コマンドリファレンス』 | 『Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) SNMP, IPMI, CIM, WS-MAN プロトコル管理リファレンスガイド』 | 『Oracle ILOM SNMP および IPMI 用プロトコル管理リファレンス』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |
| 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 機能更新およびリリースノート』 | 『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノート』 『ファームウェアリリース 3.2.1』 |

相互参照で使用するタイトルの簡略化

Oracle ILOM ガイドでは、Oracle ILOM ドキュメントライブラリのほかのガイドを参照するために、簡略化されたタイトルが使用されています。簡略化されたタイトルを次に示します。

| 完全なタイトル | 簡略化されたタイトル |
|--|--------------------------------|
| 『Oracle ILOM スタートガイド』 | 『Oracle ILOM スタートガイド (3.2.1)』 |
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 | |
| 『Oracle ILOM システムモニタリングおよび診断用ユーザーズガイド』 | 『Oracle ILOM ユーザーズガイド (3.2.1)』 |

| 完全なタイトル | 簡略化されたタイトル |
|---|---|
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』 | 『Oracle ILOM 管理者ガイド (3.2.1)』 |
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 『Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス』 | 『Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス (3.2.1)』 |
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 『Oracle ILOM SNMP, IPMI, CIM, WS-MAN 用プロトコル管理リファレンス』 | 『Oracle ILOM プロトコル管理リファレンス (3.2.1)』 |
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノート』 | 『Oracle ILOM 機能更新およびリリースノート (3.2.1)』 |
| 『ファームウェアリリース 3.2.1』 | |

Web インタフェースの命名法を反映するためのリモートコンソールの参照の変更

Oracle ILOM のドキュメントの以前の繰り返しでは、リモートコンソールアプリケーションは、リモートコンソールおよびリモートコンソールプラスと呼ばれていました。Oracle ILOM Web インタフェースでの命名法を反映するために、これらの参照は、それぞれリモートシステムコンソールおよびリモートシステムコンソールプラスに変更されました。

ドキュメントからの Windows Vista のサポートの削除

Oracle ILOM のドキュメントの以前の繰り返しでは、Windows Vista が、リモートコンソール機能のサポート対象のオペレーティングシステムとして誤って一覧表示されていました。Oracle ILOM のドキュメントライブラリと Web インタフェースのヘルプページでは、サポート対象のオペレーティングシステムとしての Windows Vista は削除されました。

Oracle ILOM 3.2.2 ファームウェアに対する更新

このセクションでは、3.2.2 ファームウェアリリースの時点で Oracle ILOM に追加された新しい機能について説明します。既知の問題と解決済みの問題についても説明します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [21 ページの「Oracle ILOM 3.2.2 の新機能および拡張機能」](#)
- [22 ページの「Oracle ILOM 3.2.2 の時点で既知の問題」](#)
- [23 ページの「Oracle ILOM 3.2.2 の時点で解決済みの問題」](#)

Oracle ILOM 3.2.2 の新機能および拡張機能

次の表に、Oracle ILOM 3.2.2 のファームウェア機能拡張の一部を示します。

表 2 Oracle ILOM 3.2.2 の時点の新機能および拡張機能のサマリー

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|---------------------------------|---|--|
| VLAN のタグ付け | システムが VLAN のタグ付き Ethernet フレームを生成して処理できるようにするには、VLAN のタグ付けを有効にします。 | 「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| 仮想リモートストレージデバイス機能 | リモートイメージファイルを SP からホストにリダイレクトするには、Oracle ILOM 仮想リモートストレージデバイス機能を使用します。 | 「Redirecting an Image File From a Storage Device to the Host Server」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| BIOS の「Boot Mode」プロパティ (x86 のみ) | システムが UEFI とレガシー BIOS のどちらのブートモードでブートするように構成されているかを表示します。 | 「Web and CLI: BIOS Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| UEFI 診断 (x86 のみ) | UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) および Oracle ILOM 3.2.2 以降が標準装備されているサーバーでは、診断テストスイートとして PC-Check に代わって UEFI 診断が実行されます。 | 「Enabling x86 Diagnostics to Run at Boot」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |
| オンボード I/O デバイスに関して提供される詳細 | Oracle ILOM 3.2.2 および Oracle Hardware Management Pack が実行されているサーバーでは、PCIe ホストバスアダプタなど、オンボード I/O デバイスに関する詳細を表示します。この拡張情報は、 | 「Getting Started With Oracle ILOM 3.2.x」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|----|---|-----------------|
| | <p>次の階層の下にあるコマンド行インタフェースで使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ /System/Storage ■ /System/PCI_Devices ■ /System/Networking/Ethernet_NICs <p>さらに、Infiniband デバイスに関する情報を提供するために、新しいターゲットが CLI に追加されました。</p> <p>/System/Networking/Infiniband</p> <p>Web インタフェースでは、I/O デバイスに関する情報は、次の「System Information」ページにあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「System Information」>「Storage」 ■ 「System Information」>「Networking」 ■ 「System Information」>「PCI Devices」 | |

Oracle ILOM 3.2.2 の時点で既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.2 リリース以降に報告された既知の問題について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト (ER) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 既知の問題 | リンク |
|---|---|
| オンボード I/O デバイスに関する詳細情報を表示する機能には制限があります。 | 22 ページの「オンボード I/O デバイスに関する詳細の表示の制限」 |
| 特殊キーとのキーの組み合わせを使用したあと、特殊キーがロックされます。 | 23 ページの「Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスで特殊キーがロックされる」 |

オンボード I/O デバイスに関する詳細の表示の制限

問題: [21 ページの「Oracle ILOM 3.2.2 の新機能および拡張機能」](#)で説明されているように、Oracle ILOM はオンボード I/O デバイス (PCIe ホストバスアダプタなど) に関する詳細を表示します。ただし、この機能には制限があります。

- I/O デバイスの IPv4 アドレス情報のみが提供されます。
- x86 システムでは、この機能は、最小で BIOS ファームウェアバージョン 24002100 が実行されているシステムでのみ使用可能です。
- SPARC プラットフォームでは、次のホストバスアダプタ (HBA) の拡張情報は使用できません。
 - Sun Storage 6G バイト SAS PCIe RAID HBA (内蔵)

- Sun Storage 6G バイト SAS REM RAID HBA

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスで特殊キーがロックされる

問題: Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールプラスアプリケーションで特殊キーを含むキーシーケンスを使用すると、その特殊キーが以降のキーストロークまたはマウスクリックに対して有効なままになります。たとえば、**Ctrl+Print Screen** のキーシーケンスを使用すると、**Ctrl** キーがロックされます。リモートコンソールアプリケーションからホストに送信される以降のキーストロークまたはマウスクリックは、その特殊キーと目的のキーストロークまたはマウスクリックの組み合わせになります。

回避方法: 特殊キーのロックを解除するには、「Oracle ILOM Remote System Console Plus」ウィンドウの上部にあるロックされたキーに対応するボタンをクリックします。

Oracle ILOM 3.2.2 の時点で解決済みの問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.2 の時点で解決済みの問題について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト (ER) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 解決済みの問題 | リンク |
|--------------------------------|---|
| 監査ログオブジェクトが、欠落しているセッション番号を参照する | 23 ページの「監査ログオブジェクト参照へのセッション番号の追加」 |

監査ログオブジェクト参照へのセッション番号の追加

問題: Oracle ILOM 監査ログは、ログイン、ログアウト、構成の変更、パスワードの変更などのユーザーアクションを追跡します。3.2.2 ファームウェアリリースの前までは、ユーザーのログインとログアウトに関する監査ログエントリは、次の汎用オブジェクト参照に含まれていました。

```
object = "/SP/session/type"
```

管理者は、各ユーザーセッションのログインイベントとログアウトイベントを一致させることができませんでした。

更新: ファームウェアリリース 3.2.2 以降、セッション番号が監査ログオブジェクト参照に追加され、各セッションのログインイベントとログアウトイベントを一致させることができます。

```
Audit
ID      Date/Time                Class   Type      Severity
-----
476     Mon Nov 18 18:27:17 2013  Audit   UI        minor
root : Close Session : object = "/SP/sessions/16/type" : value =
"console" : success
475     Mon Nov 18 15:29:46 2013  Audit   UI        minor
root : Open Session : object = "/SP/sessions/16/type" : value =
"console" : success
```

Oracle ILOM 3.2.4 ファームウェアへの更新

このセクションでは、3.2.4 ファームウェアリリース時点の Oracle ILOM に追加された新機能について説明します。既知の問題と解決済みの問題についても説明します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [25 ページの「Oracle ILOM 3.2.4 の新機能および拡張機能」](#)
- [26 ページの「Oracle ILOM 3.2.4 時点の既知の問題」](#)

Oracle ILOM 3.2.4 の新機能および拡張機能

次の表は、Oracle ILOM 3.2.4 のファームウェア機能拡張の一部を示しています。

表 3 Oracle ILOM 3.2.4 時点の新機能および拡張機能のサマリー

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|--|--|---|
| 選択されたシステム上の Oracle ILOM で使用できる拡張された IP 接続設定。 | <p>ファームウェア 3.2.4 時点の Oracle ILOM は、IPv4 および IPv6 ネットワーク接続の状態プロパティを個別に有効または無効にする機能をサポートしています。さらに、新しい静的 IPv6 ゲートウェイプロパティを構成できます。</p> <p>これらの拡張された IP 設定は、ほとんどの新しいサーバーモデルと、新しいソフトウェアリリースを実行している選択された数のレガシーサーバーで使用できます。</p> <p>注記 - このセクションで説明されている IP 接続拡張機能が構成可能でない場合は、サーバー管理者ガイドまたはプロダクトノート参照して、これらの IP 拡張機能をサポートする新しいソフトウェアリリースを入手できるかどうかを確認してください。</p> | ■ 「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| FIPS モード | <p>Oracle ILOM の Web およびコマンド行インタフェースを使用して、FIPS (Federal Information Processing Standards) 準拠モードを構成できます。このモードが有効になっていると、Oracle ILOM は、システム上の機密データまたは重要なデータを保護するために、FIPS 140-2 セキュリティ標準に準拠した暗号化アルゴリズムを使用します。</p> | ■ 「Operating Oracle ILOM in FIPS Compliance Mode」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 ■ Oracle ILOM Security Guide Firmware Releases 3.0, 3.1, and 3.2 |
| IPMI 2.0 | <p>セキュリティを向上させるために、IPMI (Intelligent Platform Management Interface)</p> | 「Modifying Default Management Access Configuration Properties」 in |

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|-------------------------------------|---|---|
| | v2.0 セッションはデフォルトで有効になっています。IPMI v1.5 の代わりとして、IPMI v2.0 は拡張認証と IPMI パケット暗号化を提供します。 | 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスのセッション数 | デフォルトでは、Oracle ILOM ではホストコンソールのビデオリダイレクションを最大 4 つ起動できます。Oracle ILOM 3.2.4 の時点では、オプションでリダイレクションセッションの数を制限できます。 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「Oracle ILOM Remote System Console Plus」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 ■ 「Modify KVMs Maximum Client Session Count (Optional)」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| UEFI 診断 (x86 のみ) | UEFI 診断の構成パラダイムが簡素化され、診断テストを構成ページから開始および停止できるようになりました。さらに、Oracle ILOM Web インタフェースで診断テストのステータスを表示できます。 | 「Enabling x86 Diagnostics to Run at Boot」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |
| Transport Layer Security プロトコルのサポート | Oracle ILOM で HTTPS サービスに対してサポートされるプロトコルとして TLS (Transport Layer Security) v1.1 および v1.2 が追加されました。TLS によって、SSL (Secure Socket Layer) 実装より高いセキュリティが提供されます。 | 「Modifying Default Management Access Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| IP アドレスの制限 | 3.2.4 ファームウェアリリースより前では、Oracle ILOM を使用して、次のサブネットワーク内の IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てることができました。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 169.254.10.n ■ 169.254.11.n ■ 169.254.12.n ただし、これらの IP アドレスは特殊な使用のために予約されています。3.2.4 ファームウェアリリースの時点では、示されているアドレスを NET MGT ポートに割り当てようとする、Oracle ILOM によってエラーメッセージが発行されます。 | 「Modifying Default Connectivity Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| Web インタフェースのアクセシビリティ | Oracle ILOM Web インタフェースが、Oracle のアクセシビリティガイドラインに準拠するように更新されました。 | http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html |

Oracle ILOM 3.2.4 時点の既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.4 リリース以降に報告された既知の問題について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト (ER) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 既知の問題 | リンク |
|--|--|
| Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスを起動しようとすると、エラーが表示されます。 | 27 ページの「サーバーを 3.2.4 ファームウェアリリースに更新したあと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動できない」 |
| ユーザーパスワード内に特殊文字があると、Web インタフェースからのスナップショットのダウンロードが失敗します。 | 27 ページの「ユーザーパスワードに特殊文字を使用すると、スナップショットのダウンロードがハングアップする」 |

サーバーを 3.2.4 ファームウェアリリースに更新したあと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動できない

問題: サーバーファームウェアを Oracle ILOM 3.2.4 に更新したあと、ホストコンソールのビデオリダイレクションを起動できません。リダイレクションセッションを起動しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

Bad Device Capabilities Response Status: 2

回避方法: このエラーメッセージは、使用しているリモートコンソールアプリケーションのバージョンが、アクセスしようとしているサーバーと互換性がないことを示します。以前の Oracle ILOM リリースのリモートコンソールアプリケーションのバージョンを使用して、Oracle ILOM 3.2.4 を実行しているサーバーにアクセスしようとすると、リダイレクションは失敗します。

一般には、同じサーバー上のリモートコンソールアプリケーションを使用してホストにアクセスすることをお勧めします。リモートコンソールアプリケーションをダウンロードする場合は、アクセスしようとしているサーバーと同じバージョンのアプリケーションをダウンロードしていることを確認してください。

ユーザーパスワードに特殊文字を使用すると、スナップショットのダウンロードがハングアップする

問題: パスワードを必要とする URL 転送方法 (FTP/FTP/FTPS/HTTP/HTTPS) を使用しているとき、指定されたパスワードに小記号 (<)、大記号 (>)、左または右括弧 (())、単一引用符 (')、二重引用符 (")、バックスラッシュ (\)、セミコロン (;)、ピリオド (.)、アンパサンド (&)、ドル記号 (\$)、パイプ (|)、アポストロフィ (') のいずれかの文字が含まれている場合、スナップショットは暗黙のうちに Oracle ILOM Web インタフェースからの実行に失敗します。

回避方法:

- Oracle ILOM CLI を使用してスナップショットを生成します。
- URL に送信するのではなく、スナップショットファイルをダウンロードします。

- リモートサーバー上のユーザーアカウントを (上に示した) サポートされていない特殊文字を含むパスワードを使用しないように変更します。

Oracle ILOM 3.2.5 ファームウェアへの更新

このセクションでは、3.2.5 ファームウェアリリース時点の Oracle ILOM に追加された新機能について説明します。既知の問題と解決済みの問題についても説明します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 29 ページの「Oracle ILOM 3.2.5 の新機能および拡張機能」
- 30 ページの「Oracle ILOM 3.2.5 時点の既知の問題」

Oracle ILOM 3.2.5 の新機能および拡張機能

次の表は、Oracle ILOM 3.2.5 のファームウェア機能拡張の一部を示しています。

表 4 Oracle ILOM 3.2.5 時点の新機能および拡張機能のサマリー

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|---|---|--|
| すべてのローカルユーザーのパスワードポリシー | 管理者は、Oracle ILOM の CLI または Web インタフェースを使用して、すべてのローカルユーザーのパスワードポリシー制限を設定できます。 | 「Managing Password Policy Restrictions for Local Users」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| SSH の状態および弱い暗号の構成 | Oracle ILOM には、SSH の状態 (デフォルトで有効) と弱い暗号 (デフォルトで無効) のための CLI および Web 構成プロパティが用意されています。 | 「Management of SSH Server State and Weak Ciphers」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| バナーメッセージ管理への拡張機能 | ログイン前およびログイン後のバナーメッセージの構成の拡張機能が Oracle ILOM の CLI および Web インタフェースで使用できます。 | 「Management of Banner Messages at Log-In」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| 自動保守要求の構成 | Oracle ILOM には、自動保守要求のための CLI および Web 構成プロパティが用意されています。 | 「Managing Automatic Service Requests」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| Oracle Network OPUS スイッチでの CLI カスタムプロンプトの構成 | Oracle ILOM には、CLI カスタムプロンプトを指定するための CLI および Web 構成プロパティが用意されています。 注記 - この機能は、当初は Oracle ILOM OPUS スイッチで使用できます。 | 「CLI Session Timeout and Custom Prompt Configuration Properties」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |
| SPARC ドメインサーバーの拡張されたホスト履歴ログ | Oracle ILOM Web インタフェースには、ドメインのステータス履歴ログを表示する機能が用意されています。 | 「Establishing a Host Serial Console Session to the Server」 in 『Oracle ILOM |

| 機能 | 拡張機能の説明 | 詳細は、次を参照してください。 |
|--|--|--|
| | 注記 - このブラウザベースの拡張機能は、ドメイン固有のステータス履歴ログを CLI から表示する機能と同等です。 | Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x |
| SPARC M シリーズサーバーのための取り外したり、戻したりする保守アクションの準備。 | Oracle ILOM には、SPARC M シリーズのリムーバブルコンポーネントを保守のために取り外したり、戻したりするための CLI および Web 構成プロパティが用意されています。 | 「Administering Removable Devices on SPARC M-Series Servers」 in 『Oracle ILOM User's Guide for System Monitoring and Diagnostics Firmware Release 3.2.x』 |
| x86 ホストコンソールログでタイムスタンプを表示するための構成 | /HOST/console の下にある、x86 サーバーのための Oracle ILOM CLI の新しい timestamp プロパティ。 | 「Establishing a Host Serial Console Session to the Server」 in 『Oracle ILOM Administrator's Guide for Configuration and Maintenance Firmware Release 3.2.x』 |

Oracle ILOM 3.2.5 時点の既知の問題

このセクションでは、Oracle ILOM 3.2.5 リリース以降に報告された既知の問題について説明します。各問題に固有のバグまたはエンハンスメントリクエスト (ER) 番号と回避方法または更新が存在する場合は、あわせて示します。

| 既知の問題 | リンク |
|--|---|
| SPARC サーバー上の検証済みブート構成の制限。 | 30 ページの「検証済みブートポリシーおよび非揮発性 RAM 構成によって SPARC サーバー上のブートが失敗することがある」 |
| 新しい Oracle ILOM ファームウェアリリースに更新したあとのエラーメッセージ。 | 31 ページの「Web インタフェースからホストの電源を投入できないというエラーメッセージ」 |
| x86 システム上のファームウェア更新プロセスが予想したより長くかかります。 | 31 ページの「x86 の遅延 BIOS ファームウェアオプションによってリセット時間が長くなったり、複数回リポートしたりする場合があります」 |
| Oracle Netra モジュラーシステム上で警告管理規則 1 および 2 を変更すると、エラーが発生します。 | 32 ページの「Oracle Netra モジュラーシステムでの警告管理規則の制限された使用」 |
| Oracle Solaris リモートストレージデバイスが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されません。 | 32 ページの「Solaris OBP ストレージデバイスがリモートシステムコンソールプラスに表示されない」 |
| Java 7 が存在し、かつ TLS 1.1 または 1.2 が有効になっていると、Oracle ILOM の Java ベースのリモートシステムコンソールアプリケーションが機能しません。 | 32 ページの「Java 7 以前を実行している場合のリモートシステムコンソールに関する TLS の制限」 |
| M シリーズサーバーは、SP 上の IPv4 DHCP 接続をサポートしていません。 | 33 ページの「M シリーズサーバーが SP 上の DHCP 接続をサポートしていない」 |

検証済みブートポリシーおよび非揮発性 RAM 構成によって SPARC サーバー上のブートが失敗することがある

サーバープラットフォーム: SPARC T および M シリーズサーバー

サーバーソフトウェア: SPARC ソフトウェアリリース 9.1.0 以降。

問題: 次の構成パラメータが設定されていると、SPARC T および M シリーズサーバー上のブート操作が失敗することがあります。

- Oracle ILOM で検証済みブートのブートポリシーが Enforce に設定されている。
- use-nvramrc? の非揮発性 RAM 構成変数が True に設定されている。

注記 - nvalias コマンドを使用してデバイス別名が作成された場合、use-nvramrc? 変数は自動的に True に設定されます。use-nvramrc? 変数は、setenv OpenBoot コマンドを使用して手動で False に設定できます。OpenBoot コマンドの使用の詳細は、Oracle Solaris ドキュメントコレクションにある OpenBoot のコマンドリファレンスマニュアルを参照してください。

回避方法: 検証済みブートの Oracle ILOM ブートポリシーが Enforce に設定されている場合は、use-nvramrc? の非揮発性構成を False に設定するか、または検証済みブートの Oracle ILOM ブートポリシーを None または Warning に設定します。

Web インタフェースからホストの電源を投入できないというエラーメッセージ

問題: Oracle ILOM を更新したあと、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Internal Error - DCC : Fini : Stack not restored : Page processing terminated
```

回避方法: Web ブラウザ内のキャッシュをクリアします。

x86 の遅延 BIOS ファームウェアオプションによってリセット時間が長くなったり、複数回リブートしたりする場合があります

サーバープラットフォーム: Oracle x86 サーバープラットフォーム

問題: サーバーに保留中の BIOS アップグレードがある場合は、ルーチンのリセットが完了するまでの時間が長くなります。保留中の BIOS アップグレードにより、サーバーの電源が再投入されたり、複数回リブートしたりします。これは予期された動作です。アップグレードに FPGA 更新が含まれている場合は、そのプロセスが完了するまでに 26 分かかることがあります。

保留中の BIOS アップグレードは、次の両方の条件に当てはまる場合に存在します。

- Oracle ILOM を使用して BIOS と SP ファームウェアを更新した。
- Oracle ILOM ファームウェアの更新プロセス中に、「Delay BIOS Upgrade」を選択した。

回避方法: 回避方法は必要ありません。このリリースノートで説明されている問題は、予期された動作と見なされます。

Oracle Netra モジュラーシステムでの警告管理規則の制限された使用

サーバープラットフォーム: Oracle Netra モジュラーシステム

問題: 規則 1 と規則 2 の Oracle ILOM 警告管理構成プロパティを変更したあと、エラーが発生します。

規則 1 と規則 2 の警告管理プロパティは、システム関連の内部的な機能のために予約されています。Oracle Netra モジュラーシステム上で規則 1 または規則 2 の警告プロパティが編集された場合は、システム上でエラーが発生し、管理機能に悪影響を与えます。

回避方法: 規則 1 と規則 2 の警告管理プロパティを編集しないでください。必要な場合は、3 から 15 までの警告管理規則プロパティのみを構成してください。

Solaris OBP ストレージデバイスがリモートシステムコンソールプラスに表示されない

サーバープラットフォーム: SPARC T および M シリーズサーバー

ソフトウェア: Oracle Solaris 11.3

問題: Solaris OBP ストレージデバイスが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションに表示されません。

回避方法: Solaris OBP デバイスツリーをリフレッシュします。

Java 7 以前を実行している場合のリモートシステムコンソールに関する TLS の制限

サーバープラットフォーム: すべての Oracle サーバー SP。

ソフトウェア:

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールまたは Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス
- Java SE Development Kit (JDK) 7 以前または Java SE Runtime Environment (JRE) 7 以前

問題: サーバー上で Java 7 (以前) が実行されている場合、Oracle ILOM の Java ベースのリモートシステムコンソールは TLSv1.1 または TLSv1.2 をサポートしていません。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- サーバー SP が TLSv_1.1 または TLSv_1.2 を有効にした状態で動作する必要がある場合は、Java 8 をインストールしたあと、Oracle ILOM の Java ベースのリモートシステムコンソールアプリケーションを起動して使用します。

または

- TLSv_1.0 のみを有効にしたあと、Oracle ILOM の Java ベースのリモートシステムコンソールアプリケーションを起動して使用します。

M シリーズサーバーが SP 上の DHCP 接続をサポートしていない

サーバープラットフォーム: M5/M6/M7 サーバー SP

ソフトウェア: システムファームウェア 9.4.3 以前

問題: Oracle ILOM の CLI および Web インタフェースには、DHCP と静的の両方の IPv4 接続プロパティが用意されています。DHCP の接続プロパティが有効になっていると、Oracle ILOM (サーバー SP) へのネットワーク接続が正しく機能しないことがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行します。

- 静的 IPv4 ネットワーク接続を有効にします。
- 使用しているサーバー用に My Oracle Support から入手可能な新しいシステムファームウェアリリースに更新します。

